

| ディプロマ・ポリシー  |     | カリキュラム・ポリシー  | アドミッション・ポリシー  |
|---|-----|--|---|
| <p>本専攻では、本学の定める修業年限以上在学し、次のような能力・資質を備えた上で、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文の審査および最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の意見を聴いて、学長が課程修了を認定します。課程修了が認定された者には、修士（健康科学）または修士（スポーツ科学）の学位を授与します。</p> |     | <p>本専攻ではディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通科目」と「各分野科目」で開講する特論、演習、実習を通して「知識・理解」、「技能・表現」、「思考・判断」、「態度・志向性」を身につけ、「論文作成研究科目」では修士論文の作成に向けた研究計画立案、予備実験・調査、本実験・調査などの研究活動ができる学年積み上げ方式の教育課程を編成します。また、学生が主体的に考える力を養うためのアクティブラーニングと課題によって能動的に学修する態度を養い、より高度な専門的知識を活かした研究活動と論文作成へと繋げていきます。</p> | <p>本専攻修士課程は「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な次に掲げる知識や技能、意欲を備えた人を求めます。</p>  |
| 1. 知識・理解  | 1-1 | 欧米の論文を読んで研究の知識を深め、最新の情報を得ることが出来る。  | <p>本専攻では、健康・スポーツを科学的・専門的に学ぼうとする意欲を持ち、①幅広い年齢層における疾病の一次予防を目的とした運動処方や二次予防として種々の病態に相応しい運動療法について、高度な医科学的知識に加えて行動科学的なアプローチに精通しようとする健康運動指導士や健康運動実践指導者、さらに管理栄養士などの資格を有する者、②より専門的な科学的理論に裏付けられた運動発達のプロセスやトレーニングの原則、スポーツ傷害の予防および回復に関する高度な医科学的知識や競技力向上のための優れたコーチングとスポーツ生理学・バイオメカニクス・心理学等の科学的なトレーニング理論が理解できる。</p> <p>1. 「共通科目」は本専攻の基盤科目に相当します。そのため、柱となる「健康科学総論」では一次予防から三次予防について医学およびリハビリテーション科学の各領域による最新の理論と実践について学び、「スポーツ科学総論」ではスポーツにおけるパフォーマンスの向上について、バイオメカニクスの、生理的、心理的およびコーチングの面から指導現場における問題意識と課題を解決するために必要な取り組みについて学ぶことにします。さらに「研究倫理」では科学の健全な発展のために科学者として必要な考え方として1) 責任ある研究活動とは何か、2) 高い倫理性に基づく研究の進め方、3) 適正な研究成果の発表について理解を深めます。</p> <p>2. 「健康・スポーツ教育学分野科目」は、健康教育およびスポーツ教育についての専門知識を高め、高い指導力を有した教育のスペシャリストを養成するための科目区分です。</p> <p>3. 「健康・体力科学分野科目」は医学、運動生理学、レジャー・レクリエーションおよび行動科学の専門知識を高め、高い指導力を有した健康をサポートできる運動指導者のスペシャリストを養成するための科目区分です。</p> <p>4. 「スポーツトレーニング科学分野科目」はスポーツ動作、技術、心理および体力について科学的手法を用いて分析・評価を行い、競技種目特性に応じた適切なトレーニングプログラムやコンディショニングプログラムを立案・指導できるスペシャリストを養成するための科目区分です。</p> <p>5. 「スポーツビジネス分野科目」は経営学や商学の基礎を理解した上で健康・スポーツ関連の最新のビジネスや女性に連関が深いビジネスについて考える力を養い、起業についてのプロセスを理解するための科目区分です。</p> <p>6. 「リハビリテーション科学分野科目」は医学、理学療法学、健康科学などの専門知識を高め、問題解決能力と研究能力を有した健康をサポートできる有資格理学療法士のスペシャリストを養成するための科目区分です。</p> <p>7. 「論文作成研究科目」では、修士論文の作成準備に必要な内容を含んだ「課題研究Ⅰ」と関連する最新情報を交えて論理的な思考で論文作成に導く「課題研究Ⅱ」を設けます。</p> <p>なお、本専攻で掲げたディプロマ・ポリシー達成の評価は、学位論文審査要件（学術雑誌への投稿又は学会発表）と修士論文をもって総括的に行います。</p> |
|   | 1-2 | 修士論文の作成に不可欠な「研究のプロセス」、「統計手法」および「研究スタイル」に関する基礎的知識を得ることが出来る。   |   |
|   | 1-3 | 幅広い年齢層における一次予防を目的とした運動処方や現代社会において要請度の高いフィジカル・レクリエーションに関する知識、さらに二次予防として種々の病態に相応しい運動療法について、高度な医科学的知識に加えて行動科学的な手法が理解できる。  |   |
|   | 1-4 | 発育期におけるより専門的な科学的理論に裏付けられた運動発達のプロセスやトレーニングの原則、スポーツ傷害の予防および回復に関する高度な医科学的知識や競技力向上のための優れたコーチングとスポーツ生理学・バイオメカニクス・心理学等の科学的なトレーニング理論が理解できる。   |   |
|   | 1-5 | 運動機能障害および運動機能回復分野に関する諸問題をリハビリテーション科学の学術的知見に基づき、総合的に理解できるようにする。また、それらを基盤として基礎的研究から臨床的応用へと幅広い研究に対応できる知識を身につける。さらに、細胞生物学や分子生物学のレベルから、運動機能障害が生じる分子メカニズムが理解できる。   |   |
|   | 1-6 | 健康・スポーツに関連するビジネスを展開する上で必要な経営学や商学の基礎が理解できる。   |   |
| 2. 技能・表現  | 2-1 | 安全に運動を実施するための運動負荷試験をはじめ効果的な運動プログラムが作成できるようになる。また、身体活動及びストレス・マネジメントなどの健康行動科学に関連する実験・調査と適切な統計処理ができるようになる。さらに、レジャー・レクリエーションの研究で多く用いられる調査・分析方法を身につけている。  |   |
|   | 2-2 | 学校教育現場において解明しようとする課題を設定してデータを収集・解析し、論理的に組み立てて一定の知見を得る能力を身につける。また、スポーツ競技における種々の動作分析とデータの数理的解釈ができ、スポーツの傷害予防や競技力向上のための研究に貢献する思考・技術を身につける。さらに、スポーツの適切なコーチングを推進するための目標・課題の設定法を理解し、課題解決手段や計画立案法及び効果的なコーチングの実践能力を身につけている。   |   |
|   | 2-3 | 身体運動機能系障害に対するリハビリテーション（理学療法学的評価と介入に関する技術を習得し、さらに客観的データに対する統計処理ができる。さらに、運動機能障害や運動失調症についての細胞生物学・分子生物学の手法を用いた解析法を習得することができる。  |   |
|   | 2-4 | 健康・スポーツに関連する製品開発やメディアプロモーション戦略におけるコミュニケーションデザインなど、実践的なマーケティングアプローチができる。  |   |
| 3. 思考・判断  | 3-1 | 研究テーマを絞り込んだ社会的背景と研究課題の成果を合理的かつ論理的に思考することができる。  |   |
|   | 3-2 | 研究課題を解決するための実験・調査の条件を計画的に絞り込むことができる。   |   |
|   | 3-3 | 論理的思考でプレゼンテーションやディスカッションができる。  |   |
| 4. 態度・志向性   | 4-1 | 本研究科では、学校教育現場、スポーツ競技選手をはじめ身体機能障害および身体機能回復に関する人、さらにスポーツビジネスの対象となる消費者を対象とした研究を推進している。そのため、人を思いやり、人の立場に立って物事を考えることができる高い倫理観に支えられた規律のある態度で研究に臨み、それぞれの研究目標の実現に向け、主体的・論理的・実行力をもって努力することができる。   |   |
|   | 4-2 | 動物実験を伴う生命科学的研究は、人の健康・福祉、さらに先端医療の発展などにおいて必要な手段である。本研究科では「武庫川女子大学動物実験規程」を遵守し、動物実験の適正な運用のもとで研究に臨むことができる。  |   |